

# 地域づくり委員会

平成30年10月11日(木)広島市において、古瀬委員長をはじめ約60名の委員の出席のもと、平成30年度第1回地域づくり委員会を開催した。

当日は議事に先立ち、国土交通省 中国地方整備局 道路部長 福田敬大氏から「道路行政に関する最近の話題」と題しご講演をいただいた。

引き続き、平成30年度下半期の委員会活動報告、11月実施予定の国・関係機関に対する要望事項(案)について審議し、原案どおり承認された。



## 【講演要旨】

### 「道路行政に関する最近の話題」

国土交通省中国地方整備局  
道路部長 福田 敬大氏



#### ■平成30年7月豪雨災害

への取り組み並びに国(国土交通省)が中国ブロックで進めている道路事業に係る主な施策を紹介する。

#### ①豪雨災害の状況と取り組みについて

平成30年7月豪雨では、中国地方の高速道路の約7割が通行止めとなった。土砂災害は直轄国道54箇所、地方道等で延べ765箇所に及び、呉市は有料道路、国道、鉄道の3大路線が寸断し陸の孤島と化した。災害復旧に向け、まずは、主要幹線道路(東広島呉道、31号)等の早期復旧を、次いで産官学の関係者の連携に基づき、災害時BRT(Bus Rapid Transit)による代替輸送バス運行やETC2.0データの分析活用による渋滞対策等のソフト対策を展開した。

物流面では、中国道と山陰道が広域交通の代替機能を果たしたことで山陰道の早期整備の重要性が、また、関門海峡を結ぶ高速道路網が4日間寸断し、多重性確保の必要性が、改めて認識された。

政府への応急予算要求は満額回答が得られ、今後、各県市町村とも連携し補正予算や来年度予算等での更なる財源確保を目指していく。復興へ向けた復旧工事など地域企業の支援もお願いしたい。

#### ②中国地方の現状と課題

##### 【物流】

中国地方の貨物輸送割合は、山陽側3県では海運が全国水準より高く2~4割強。一方、山陰側2県では9割以上が自動車であり、山陰側は高速道路整備が遅れており、この観点からも山陰道早期整備への対応が必要。

##### 【観光】

中国地方の観光周遊の状況は、高速道路の整備状況に比例し、山陰側地域でのツアーが組み難い状況。要因は、代替路不足等により旅程の定時性確保へのリスクが高いためと考える。

##### 【交通事情】

中国地方の主要都市間の旅行速度は、山陽側の80km/h以上に対し、山陰側は40~60km/h

程度の区間が存在。また、交通事故の状況は、圏内直轄国道の死傷事故率は全国平均に対し高い区間も存在。

#### ③中国地方での高規格道路の整備状況

直轄国道予算は、近年微増傾向が続く反面、維持修繕費の割合が大きく増加している。

(平成の)30年間で山陽道と中国横断道が概成し、今後は山陰道の早期整備を目指す。

暫定2車線区間では対面事故の他、4車線道路と比較し豪雪や災害時の復旧に時間を要する課題も露呈し、走行性や安全性向上のための対策を検討中。

#### ④新たな道路付帯機能の充実

「道の駅」も増加し、単なる休憩所から、物産販売等の地域活動拠点としての機能が高まっている。今後は更に、子育て応援機能の充実や乗合車の自動運転拠点への実証実験も行っていく。

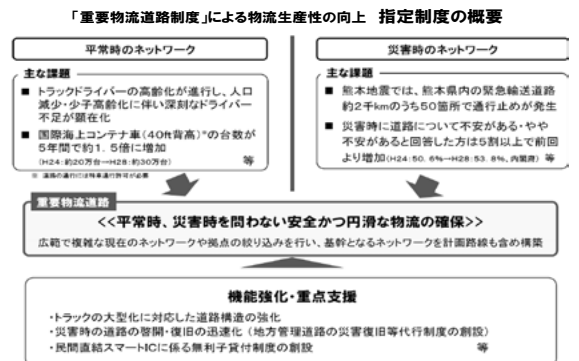
「自転車」利活用の推進のため、専用通行帯の整備や地域連携による観光振興への施策を強化。

#### ⑤道路施設(道路、橋、トンネル等)の老朽化対策

建設後50年経過後に老朽化が加速。20年後には施設の約7割が50年を迎えるため、今から予防保全を行い対策コストの縮減を図ることが必要。

#### ⑥重要物流道路制度の新設(H30年度)

大型コンテナ車増加や緊急輸送道路の堅持など、平常時、災害時を問わない物流網の強靱化を目指す。



## 【委員会議事】

事務局より、平成30年度上半期の委員会活動の実施状況について報告。

平成30年度社会基盤整備・地方創生関係要望事項案について審議し、原案どおり承認された。

(担当：齋藤)